

中学生への勉強教育～親からのアプローチを考える～

金田渉夢 (兵庫県立北摂三田高等学校)

中学生への勉強教育～親からのアプローチを考える～

北摂三田高校2年 金田渉夢
ゼミ指導教員 能地敬典

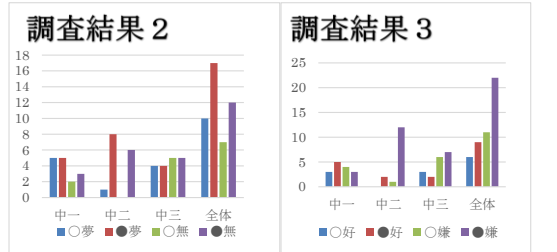
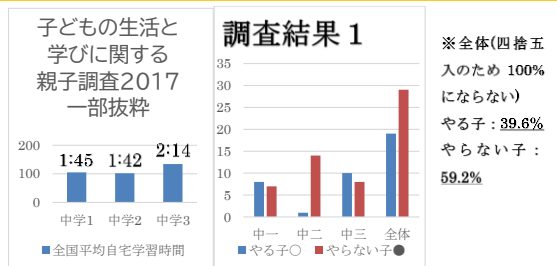
研究動機

ここ数年、ますますインターネット社会が進行し、今や社会人だけではなく子供や高齢者にも必要不可欠となったスマホ等のインターネット機器。その影響は大きく、様々なところで問題が起きている。
デジタル化が進む中、勉強というアナログな事柄に目を背けている子供が多いのではないかと。小学生時代との急激な変化に戸惑っている中学生たちが多いのではないかと。

先行研究と研究テーマ

- 「中学生のやる気は親次第？」育児類書籍から見る「理想的」教育
「聴くことが大切」「オウム返し」「否定×」「安心感」「親は信じてほしい人」
「短く端的に言いたいことを伝える」「感情のメリハリ」
×勉強しなさい
 - 出来たことをやらせて自信をつけさせる。達成感や充実感を味わわせる
 - 出来ていることを認めて自己肯定感を高める
 - 達成感や充実感を沢山味わわせる。今の勉強がこの先どう役立つかの説明する
 - 生活習慣を整える。今の勉強がこの先どう役立つかの説明する
 - 「うちの子はやれる！」と信じてじっと見守る
- 上記の内容があっているかどうか。勉強を上手くやっている子供と上手くできない子供の違いを見つける。
- 上記の内容があっていると考える。
 - 勉強をやる子はデジタル機器(スマホ、ゲーム機)とも両立している。もしくは使用していない。
 - 勉強をやる子は、自分が勉強する理由がはっきりしている。(自分の将来の夢(具体的)を持っている。)
 - 親の「正しい」アプローチが必要。
 - よい友達(ライバル)がいる。

研究結果



調査結果 4

- 全員が勉強は大切であると回答した。(一名は両方と回答)
- 勉強がなぜ大切なのかの問いに「将来に関わる役立つから」と86%が回答。
- デジタル機器使用時間が勉強時間に影響していると73%が回答。
- デジタル機器の時間制限16名、フィルタリング12名、何も触っていない12名、持たせていない3名
- 保護者の回答で、21名(53.8%)が普段の勉強態度やテスト前の勉強に、6名(15.4%)がデジタル機器の利用時間について叱ると回答。

研究手法

- a....勉強をやる子は④のような子である。
根拠は、勉強をやらない子はスマホ、ゲーム等デジタル機器に依存し、勉強に対する目標や将来の夢がまだ見つかっていない子供が多いと中・高で感じたことから。また、参考文献にした書籍にも記載されていたから。
b....勉強をやる子は、親の適切なアプローチが必要である。
参考にした書籍の記載より。
- a....勉強をやる”子供”の特徴を知る。
 - アンケート→考察
 - アンケートから分析を行い、研究結果をまとめる。
- b....親のどのようなアプローチが子供に適するか、またいけないアプローチとは何か。
 - アンケート→考察
 - アンケートから分析を行い、研究結果をまとめる。

まとめ・展望

まず、勉強をやる子の特徴をつかむことはこの実験だけではわかりませんでした。逆に言えば、将来の夢の有無や勉強の好き嫌いが勉強をやるやらないに関わっていないことがわかりました。
他にわかった点は、「デジタル機器の利用時間の自覚」と勉強時間の矛盾です。ほとんどの生徒が「勉強が嫌い、面倒」という気持ちと、「だが、ただ勉強は大切である」というコンフリクト、ジレンマに悩まされているのではないかと考えました。その一番の要因は、生徒たちが「勉強の大切さの本質」を理解できていないことと言えます。アンケートで、勉強は大切であるかとの問いに全員がはいと回答したが、勉強の大切さについて問うと、九割近くが曖昧な回答や無回答などであったことから判断できます。
また、デジタル機器の利用時間について、保護者の目が行き届いていないようにアンケートから感じました。根拠としてまず、生徒の利用過剰の自覚と保護者の叱る事柄との二つのパーセンテージの大きなズレです。勉強に影響があるほどデジタル機器を利用しているにも関わらず、注意・指摘がないのは利用状況を把握できていないか、生徒の考えすぎか、などが考えられます。さらに、子供のデジタル機器になにも設定していない保護者は3割強います。これはフィルタリングをしている人数と同じ人数でした。
展望としては、この実験から発展して勉強の大切さの本質をわかってもらうこと、今回わからなかった親の適切なアプローチ、やる子の特徴について的を絞って研究をしていきたい。

【参考文献】

「中学のやる気は親次第」谷あゆみ 「アンケート調査と統計解析がわかる本」酒井隆 「子供のほめ方・叱り方」浜尾実